

## コロナミックス

世界中の人々は、現実で起きていることが夢であってほしいとねがっているでしょう。一瞬の内に客は来なくなり、従業員に払う給料もない。まさに、今まで味わったことのない経験をされておられています。いみじくも世界的指導者は「目に見えない敵との戦争だ。」と発言しました。まさにそのような状態です。数日前に人気タレント志村けんさんがコロナウイルスに感染し、瞬く間に亡くなりました。病気の恐ろしさとともに、孤独との戦いの恐ろしさがあることを知りました。というのは、入院患者は伝染予防のために隔離され、家族と面会はできず、回復の可能性がある若者や健常者ならまだしも、高齢者やすでに持病のある方は、死の恐怖にさいなまれ、家族の励ましもなく耐えなければなりません。傍に最愛の家族が介護してくれるなら救いはあるのですが、死の恐怖におびえながら孤独な病床生活を強いられるのです。おまけに遺族にとって、亡くなっても伝染予防のため遺体に近づけない。茶毘に伏され遺骨になって初めて対面できるのです。これは残酷な話です。他人事ではなく、いつ私たちも同じような境遇に会うかもしれないのです。民族、身分、性別、才能、年齢、宗教は関係なく襲ってくるのです。最近歎異抄がベストセラーになりました。それは「孤島に行くとき一冊の本を持っていくのを許されるなら歎異抄を持っていく。」というキャチコピーに関係します。しかし何十年前に、すでにアメリカの大出版社が「孤島に流される時一冊の本を持っていくのを許されるなら何を持っていくか。」とアンケートを世界的有名な百名の著名者にしたところ、90%の人が聖書と答えました。皆さまがコロナで隔離されたなら、歎異抄でも聖書でも持っていかれることをお勧めします。なぜなら、先にお話ししたように死と相対さなければならぬからです。明治維新の時、捕まれば殺されるを覚悟で密航船に乗り込んだ新島謙は船底で聖書を読み、天地創造の真の神様を信じ、アメリカでクリスチャンになり、帰国して仏教の一番盛んな京都の中心地にキリストを伝える同志社を創立しました。このように聖書は死から生命に復活させる力があります。なぜなら、聖書にある真の神である主イエス・キリストは私たちの罪の身代わりとして十字架におかかりになられ、死んで三日目に墓から復活された死に勝利された偉大なお方なのです。現代のコロナウイルスに怯える中に、イエス・キリストの復活は希望であります。特に、四月十二日は全世界の教会はイースター、復活祭として、主の御復活をお祝いいたします。是非、私たちの教会に出席されて、ともに御復活の喜びに与ろうではありませんか。